

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成31年3月20日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3492300029		
法人名	社会福祉法人 広島友愛福祉会		
事業所名	グループホーム ふきのとう		
所在地	広島県大竹市松ヶ原854-1 (電話) 0827-57-7288		
自己評価作成日	平成31年2月5日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaikokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kani=true&amp;lievosyoCd=3492300029-00&amp;PrefCd=34&amp;VersionCd=022">http://www.kaikokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kani=true&amp;lievosyoCd=3492300029-00&amp;PrefCd=34&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 FOOT&WORK
所在地	広島市安芸区中野東4丁目11番13号
訪問調査日	平成31年3月20日(水)

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

<p>今までの生活歴を大切にしておひとりおひとりのペースでふきのとうの理念「私たちは 笑顔 を大切にします」を常に心掛けて入居者様、職員も一日笑顔で過ごしています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>グループホーム ふきのとうは1階が小規模多機能ホーム2階がグループホームで建物の周りは自然に囲まれ、四季折々の空気を感じる事が出来ます。法人の理念（自立と共生）の基に住み慣れた町で、普通の暮らしを創る事に心掛け一人ひとりの立場に立って全職員でケアについて考え、小さな事から情報を共有し、散歩、食事の準備、洗濯等職員と一緒に出来る事を行い、生活リハビリを取り入れ、出来る喜びに繋がるよう取り組み、利用者の笑顔、職員の笑顔の多い日々を過ごせるよう支援されている。近隣の方が広場で落葉焚きをされ、そこで焼き芋を焼かれ楽しいひと時を過ごされたり、地域の行事に参加し地域資源との関係が築かれている。利用者一人ひとりがその人らしい暮らしが出来るように、日々の関わりの中では利用者の会話や表情、言動等を記録される等、一人ひとりの思いや希望に添うように努めておられます。家族とはつながりを深め、なんでも相談され、家族との信頼関係が出来ている。職員は理念（私たち笑顔を大切にします）を日々の実践に具体化しようと取り組まれているグループホームです。</p>
---

グループホーム ふきのとう

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念「私たちは 笑顔を 大切にします」をフロアに掲示して、入居者様も職員も、笑顔で暮らせるようにサービスの提供を行っています。	法人の理念(自立、共生)グループホームの理念(私たちは笑顔を大切にします)を掲示し、職員は日々の業務の中で常に理念を意識したケアになっているかを確認し合い、実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	自治会に入会して、回覧版を廻し、総会や草取りなどに職員が参加している。また、敬老会や盆踊り大会など地域の行事などは、声を掛けて頂くので入居者になるべく参加出来るようにしている。毎週水曜日は地域の農協に野菜を買いに行っている。	地域の行事に参加し敬老会、盆踊り等地域の方と交流をされるよう支援され、地域ボランティアの訪問で音楽、踊り、コーラス等楽しまれている。散歩時に近所の人と挨拶を交わしている他、花や野菜の差し入れがある等、日常的に地域の一員として交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域包括支援の方からのご紹介や、病院からのご紹介の方などが見学・相談に来られて対応している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2か月に1回運営推進会議を行い、本人・ご家族・民生委員・地域包括・自治会長・市役所地域介護課の方に参加いただき、ホーム内の様子や行事、事故予防、地域防災について話し合いを行い、意見をサービスに反映させている。	2か月に1回地域自治会長、児童民生委員、利用者、家族、市役所介護保険課職員、地域包括支援センター職員、ふきのとう職員の参加で開催されている。ホームの状況や行事をお知らせし参加者からの意見を聞き、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	運営推進会議に出席いただき、情報交換をしている。また、介護保険の更新手続きの代行も行っている。	市役所介護保険課に分からない事があれば電話や直接出かけて説明を受け、情報を得ている。地域包括支援センターにはケアマネジャー会議に毎月一回出席し情報交換や事例の相談等を試している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	施設内研修を行い意識が高くなっている。身体拘束についての取り組みをフロアに掲示している。2019年4月より運営推進会議にて「身体拘束等適正化委員会」を開催し協議している。	身体拘束等適正化委員会を2か月に1回開き4点柵、つなぎ服、車いすのベルト等、実例を上げて職員それぞれの意見を聞き、情報共有をする研修をしている。法人の研修にも参加している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	全職員が施設内の研修に参加し、職員間でも不適切な声掛けなどに注意しあえる関係を築き、防止に努めている。		

グループホーム ふきのとう

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	現在後見人制度を利用されている方はいないが、制度については研修等で学んでいる。また、全国認知症グループホーム協会の「認知症グループホームサービスの権利擁護虐待防止コンプライアンスルール」を全職員に周知し実践している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約の際は必ずホーム長か管理者が丁寧に説明し理解をいただいている。 疑問や不安などは、その都度わかりやすく説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族等のご意見、ご要望は、面会時等に言われることが多い。ご家族がスタッフに意見を言いやすいような関係が築けている。スタッフは管理者に報告し、連絡ノートに書くことで、職員間でシェアして改善に向けている。入り口には、意見箱も用意しているが、この1年は何も入っていないかった。	毎月家族に利用者の状況を報告し、面会の際には話しやすい雰囲気作りで何事も話せる関係作りをしている。要望があればケアノートに詳しく書き、全員で改善に向けている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	ホーム長や管理者は、申し送りやケアカンファレンスの際、また普段から職員の意見や提案が上がりやすい雰囲気を作っている。職員の意見はしっかり聞き、改善案はすぐ試して、結果をケアに反映させている。	職員の人間関係を大切に相談や話しやすい関係作りの中で職員は意見や要望をホーム長や管理者に言える雰囲気はケアに活かされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	出来る限り職員の条件も配慮しながら意見を聞いている。 2019年4月より、広島友愛福祉会全体で人事評価制度が始まる。2018年度よりホーム長との個人面談が年2回、施設長との個人面談は年1回実施している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	2018年度は外部研修は広島県認知症介護実践研修に3名、喀痰吸引等研修に1名受講していただいた。内部研修は介護技術研修、メンタルヘルス研修、交通安全講習、事故防止研修、防災研修、中堅職員研修、認知症ケア研修、友愛福祉会事例研究発表会などに、多くの職員に参加してもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	2018年度はホーム長が「大竹市介護支援専門員連絡協議会」の理事として大竹市の高齢者福祉の向上に向けて同業者と協働した。また、「大竹市多職種連携協議会」の会員として2019年1月に地域で行う「よろず相談」に相談員として派遣されている。		

グループホーム ふきのとう

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	契約前にはご本人、ご家族に見学に来ていただいたり、ご自宅に訪問し、本人とご家族の意見をしっかり聞いて信頼関係が築けるように心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	契約前にはご本人と共にご家族に見学に来ていただき、施設またはご自宅でご家族と面談している。利用開始までホームでの生活についてしっかりと説明を行いご家族の要望に耳を傾けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	面談時に本当に困っているところを見極めるように努め、必要に応じて他の制度や他の施設の説明や紹介を行い、選択できるように情報提供をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	洗濯干しや洗濯たたみ、テーブル拭きなど、本人の出来る事は職員と行き、必ず感謝とねぎらいを言葉にして入居者の笑顔を引き出している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	行事や美容の日に写真を撮り、最近の様子や行事などを毎月ご家族にお送りしている。また、面会の少ないご家族には通院のお願いや着替え持参等の依頼を行って会う機会を増やしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	馴染みの方も面会に来やすい雰囲気を作っている。面会時には入居者のお部屋でお茶を出し、ゆっくり交流が出来るように支援している。外出プログラムでも神社や自宅周辺など馴染みの場所に行ったり、そばを通るようにしている。	家族親戚の面会があり、居室に椅子を持ち込みお茶を出してゆっくりされるよう支援している。法事、お盆、掃除など自宅に帰られることもある。馴染みの場所にドライブする事もあり支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	家事やレクリエーション、食事の際は入居者様同士でお話が弾むように声掛けに努めている。入居者様同士の相性を考慮して毎回席を工夫している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	入院や他の施設に入居された方には、出来るだけ面会に行っている。退所者の家族の方より相談があれば支援を行っている。		

グループホーム ふきのとう

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	生活歴や普段の言動などから本人の意向を把握するよう努めており、本人・家族の意向や希望に沿ったケアを目指している。	担当者は家族との信頼関係を築き情報を得ている。日々生活の中で利用者との会話や言動、表情や思いから、意向をくみ取るよう接している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居者、ご家族との色々な話の中から本人の生活歴や馴染みの暮らし方の情報を引出し、理解できるよう努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	健康管理は毎日バイタルチェックをして変化は訪問介護師、かかりつけ医に相談している。また様子に変化があればその都度対応して、詳細に個人記録に記入し、申し送りを行っている。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	必要に応じて、本人、ご家族、看護師、医師、スタッフの意見を聞き、ケアカンファレンスにて介護計画を作成している。6ヶ月ごとにモニタリング、評価して作成している。	毎月利用者、家族、医療関係者の意見を聞き、ケアカンファで介護計画が作成され、変化があればその都度見直し、6ヶ月毎にモニタリング、介護計画の作成をされる。利用者の状態や家族の要望に変化があれば、その都度見直し、現状に即した介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別ケア記録を毎日記録して、その記録に基づいてケアの見直しを行っている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	希望に添えるように職員同士で話し合いその都度対応している。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	松が原地区の自治会から、地域の行事に参加させていただいた。2018年9月には自治会の有志が草刈りをしてくださった。11月には自治会から声掛けしていただき廃校になった小学校の備品を多数いただいたり、隣の広場でたき火で焼き芋を焼いてくださった。松ヶ原の風景画もいただき飾っている。大竹市のコーラスボランティア			
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	家族の希望であった、毎月の訪問医療を8名の方が受けておられ、1名の方が入居前からのかかりつけ医に通院もしくは家族より往診をお願いされている。必要に応じて連絡・相談をしている。	かかりつけ医の往診が月2回あり、歯科医は必要時に往診され、専門医には出来るだけ家族による受診で、安心した医療を受けられている。薬局からは薬剤師による残薬チェックがあり、看護師による日々のバイタルチェックがされ健康管理を支援されている。		

グループホーム ふきのとう

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	訪問看護ステーションとの連携があり協力体制がとれている。24時間困った事があれば看護師に連絡・相談できる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関との関係は良好である。入退院時には入院先の地域連携室や相談員と連携し情報を共有している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	契約時に重度化指針の説明し同意を得ている。今年度は1名が入院先で亡くなり看取りはいなかった。必要に応じて終末期ケアにも取り組んでいきたい。	入居時、重度化した場合における指針を書面で説明している。重度化された時家族と話し合い希望される場合ホームで出来る事を説明している。医師、訪問看護師との連絡体制は出来ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急時対応マニュアルを作成し、活用している。急変や事故発生後に報告書、ヒヤリハット報告を行い、皆で対策を共有している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	地域と防災協定を結んでいる。緊急時対応マニュアルを作成し年2回避難訓練を行っている。	年2回の避難訓練を消防署指導で行い、夜間想定で職員1名で行い、火元に遠い、ベランダに避難誘導をしている。夜勤者は必ず消火訓練を行い訓練を身につけた職員が勤務している。	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	排泄時、入浴時にはドアを閉めたり、言葉掛けにも注意している。	プライドを傷つけるような言葉使いや対応にならないよう接遇について研修をしている。言葉には注意し特に排泄、入浴の際には気をつけた対応がされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	認知症の方でも2つに1つを選んでいただくなど、極力自己決定出来るように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	本人のペースでどのように過ごしたいか希望をとりいれている。就寝時間などその時の希望に応じている。		

グループホーム ふきのとう

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	2ヶ月に1回訪問美容がきて、カット・毛染めなど、本人や家族の希望通り行っている。			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	行事など出来る限り好きなメニューを作り、喜んでもらっている。アルコールも医師の禁止指示がなければ摂取可能。 楽しみな行事として少人数ずつで外食の支援も行っている。	利用者にとって一番楽しみな食事は、3食の内一品はレトルトを使い、手作りの日は地元野菜で、利用者の好きな食べ物を聞き作られる。状況に合わせた刻み食を提供される。おやつ作りではたこ焼き、ホットケーキを作り楽しめる。外食にも行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	1人1人に合わせた食事量や嚥下の状態を考えて支援している。ほぼ全員が1000cc以上の水分摂取をしている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後必ず口腔ケアを行い、夜間は義歯の洗浄、消毒を行っている。問題があれば訪問歯科診療を利用している。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	必要に応じてトイレ誘導を行い、個々の状態も把握している。 時間帯によってパットの大きさを使い分けている。	排泄チェック表で一人ひとりの排泄パターンを把握し、誘導している時間帯以外でも仕草をみて声掛けをする等トイレでの排泄支援がされ、夜間だけオムツ使用の方、状況の変化に応じて布パンツから紙パンツになれる方もあり、パットも使い分けている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	毎日体操を行い、野菜や水分摂取量を確保し、便秘予防に努めている。 ドクターより指示をいただき、調整して下剤を服用している。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	季節によっての入浴剤を入れ、個々のペースに合わせて一人ずつ入浴を楽しんでいただいている。 拒否する方はいない。	入浴は週2～3回一人ひとりに合わせ楽しませられている。入浴時間の長い方、熱めのお湯が好きな方それぞれの希望に添えるよう支援している。寒い時期には足浴をしながらシャワー浴をして気持ちの良い支援がされている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	十分な睡眠が摂れるように配慮している。部屋にテレビを置いている方がおられ、好きなようにつけたり消したりしている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	誤薬のないよう服薬の確認は2人でいき、薬が変わった時は申し送りをして連絡ノート、往診ノートを見てサインして注意している。			

グループホーム ふきのとう

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	職員が入居者の好みの番組をDVDに録画して持参し楽しんでもらっている。 歌の好きな方が多く、毎週2回は、カラオケのレクを行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	少人数に分けて外出支援を行い、天気の良い日はドライブにでかけている。	年間の外出支援計画をたられている。天候と体調の良い日に、宮島サービスエリア、小瀬川温泉、錦帯橋、岩国紅葉谷、バラ園、菖蒲園等にドライブに行き、楽しい外出支援は気分転換になっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	散歩のときに自分でジュースを選んで買っていたり、外出した際はご本人で支払をしていただくよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話など必要に応じてかけていただいている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	毎日清掃している。テーブルには季節の花などを飾り工夫をしている。	リビングからの眺めは、周りの田畑や樹木で、四季を感じる事が出来、室内は温度・湿度の管理がされ快適に過ごす利用者の状態や家族の要望に変化があればその都度見直し、現状に即した介護計画を作成している。テーブルには季節の花が飾られ、テーブルを囲みそれぞれ思い思いに過ごされている場となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	相性を考慮して席の配置を決めている。 思い思いに過ごせるように工夫もしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	使い慣れた家具や布団、衣類、家族の写真などを持ち込んでいただいた。仏壇を置いている方もいる。	家庭で使われていた馴染みの家具や仏壇、テレビ、アルバム、衣装ケース、家族写真、置かれ花が飾られた居心地の良い居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	トイレ・浴室は分かりやすいように表記している。 手すりや入浴バーを設置して、安全安心な生活が送れるように工夫している。		



V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

グループホーム ふきのとう

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム ふきのとう

作成日 平成 31 年 3 月 21 日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	20	ケアカンファレンスの定期開催が出来なかった。	ケアカンファレンスの定期開催。	日程を決め労務管理表に予定を入れるH31年3月より実施する。	1ヶ月
2	49	入居者がテレビ前に座っている事が多い。	入居者の個々の力を引き出し、持続するため日中の活動量を増やす。	生活リハビリ、散歩などを個別介護支援計画書に入れて実施する。	半年
3	18	日中、スタッフが入浴、調理や掃除などに時間がとられケアの時間が十分確保出来ない。	必要なスタッフ数の確保と業務見直しにより個別ケアの時間を増やす。	スタッフの確保は総務部に依頼済み、シフト業務見直し2か月のケアカンファレンス時。	1年
4	13	スタッフの介護技量に個人差があり、適正なケアが利用者の状態や家族の要望に変化があればその都度見直し、現状に即した介護計画を作成している。	介護技術の習熟度チェックを行う。	4月中に習熟度チェック表を作成、5月に実施する。	2ヶ月
5	34	転倒・しりもち等の事故が起こってしまう。	個別の事故防止と健康管理対応を決め、介護計画に入れて実施する。	事故発生後にカンファレンスし個別の事故防止対策を実施すると共に、未然に防ぐ為のカンファも定期カンファで決めてゆく。	年間通して
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。